



東中だより

No. 03 令和8年 6月30日(火) 余市町立東中学校 発行

校訓…「進取」「利他」

学校教育目標

- 自律…自ら考え判断し行動する
- 尊重…多様性を受け入れ対話し解決する
- 創造…豊かな発想で新たな価値を生み出す

中体連後志大会での姿から…

校長 明村 秀之

6月は比較的過ごしやすい気温の日が多かったですが、少しずつ湿度が上がってきたような気がしています。気象庁の長期予報(7月～9月)によると、北日本の平均気温は平年並みか高いとのこと。東日本・西日本の平均気温は高い予報となっていました。酷暑の夏となるのは間違いないようです。地域の皆様におかれましても、熱中症予防に高い意識を持ち、ご自愛ください。学校としても、余市町教育委員会の熱中症ガイドラインに基づき、対応してまいります。

さて、6月12日(金)水泳競技を皮切りに、中体連後志大会が開催されました。すべての競技を応援することができませんでしたが、参加した生徒たちそれぞれに、持てる力と熱い思いを持って大会に臨んでいました。6月29日現在で、バスケットボール部、陸上部(4種目4名)が全道大会出場となっています。そのほか、サッカーのFC余市、野球のBRUTUSのクラブチームが全道大会出場となっています。残すは7月4日に行われる剣道後志大会のみとなり、選手たちの活躍がとても楽しみです。

残念ながら優勝とはなりませんでした。それぞれの競技で、胸が熱くなるプレーがたくさんありました。女子バレーでは、味方のレシーブがコートから大きく外れてもあきらめずにボールを必死に追い、拾い上げ、見事相手コートに返した超ファインプレーがあり、大きな歓声と拍手が会場にあふれました。バドミントンでは、対戦相手と1点を競り合う緊張感のある熱戦を繰り広げ、観客も息をのんで応援していました。陸上では、自己新記録を目指し、それぞれの種目に臨む姿がとても印象的でした。特に3年生は、入部したての1年生の頃と比べると、体も大きくなり、筋力もアップし、さらに技術的な面も成長し、すばらしいパフォーマンスを

見せてくれました。競技後、「校長先生、順位はもう一歩だったけど、自己新出せました。」と晴れ晴れとした表情で語ってくれた姿に、涙がこぼれそうになりました。

どの競技でも精一杯にプレーする姿は、観ている人たちの心を動かししました。とても価値のあるすてきなことだと思います。

また、「あの時こうすればよかった、ああすれば結果は変わっていたかも…」などの思いがあるかもしれませんが、「こういう思いをしないように次こそは…」という気持ちと経験を生かし、行動が変われば、自身の未来を切り開く力につながっていくと信じています。

8月には吹奏楽部がコンクールに出場します。1年生が多く入部し人数が増えましたので、演奏に厚みが出てきたように感じています。コンクールまであと1ヶ月。思いを一つにして演奏に磨きをかけていくことと思います。文化系部活動も楽しみで仕方がありません。

部活動につきましては、国の施策により「地域展開」を進めています。児童生徒数の減少により、学校単独でチームができる部活動・種目は限られているのが現状です。近隣町村中心としながら広域でチームを組むことは当たり前の時代となりました。余市町は「NPO法人よいスポ」を母体としたクラブチームをつくり、近隣町村の子どもたちも参加して、野球やサッカーにて中体連へ出場しています。この取組も「地域展開」の一例です。

これからの時代、部活動のあり方は変わっていきますが、地域の子どもたちが参加しているチームとして、地域の皆様の温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

本校の全道大会出場選手、そして吹奏楽部に励ましのエールをぜひお願いいたします。